

令和7年度

栄小学校

5年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

# 西東京ふるさと探究学習

単元名：福祉について考えよう ～今、自分たちにできることを～  
(活動名)

ねらい：福祉に携わっている人の話を聞いたり、身近な高齢者や障がいのある人と交流したりすることを通して、さまざまな人とともに生きる社会の中で、自分にできることを考えて行動できる人になってほしいと願い、この単元を設定した。



【7月】  
昨年度末に利用者の皆さんが手作りした「さかえちゃん」のマスコットを子供たち全員がいただいたので、お礼を伝えるに、保谷苑を訪問しました。

各クラスで内容を考え、歌を歌ったりソーラン節を披露したりしてお礼の気持ちを伝えることができました。

【9月】  
認知症サポーター養成講座を受講したり、車いす体験、高齢者疑似体験を行ったり、「福祉」をテーマにさまざまな学習をしています。  
車いす体験では、実際に乗ったり、介助したりしました。少しの段差でも、一人で乗り越えるのはとても大変なことを知り、手助けがあることで安心できることを実感できました。



【障がい者サポーター養成講座】



【12月】  
体験学習をもとに肢体不自由、高齢者、認知症、障がい（知的、聴覚、視覚）の中から、もっと調べたい内容を一つ決め調べ学習を進めています。調べたことをスライドにまとめ、発信していく予定です。

## まとめ コラム

「福祉」という言葉は、よく見聞きする言葉であるものの、明確にこういうものという説明が難しいです。高齢化が進む社会の中で、さらに障がいがある方、性差、子供たち、外国の方など、さまざまな人が過ごしています。「認知症でも、自分たちとあまり変わらないところもある。」「時間はかかるけれど、代わりにやってあげるのはよくない。」など当事者の話を聞いたり、関わったりする中でさまざまな立場の方についての理解を深め、「大変」「自分とは違う」「助けてあげないと」という思いだけでなく、誰もが大切に、尊重されるべき一人ひとりだということに気付き、自分にはどんなことができるのかを考えられるようになってほしいと思います。